

夢っくすニュース

No.1

2002年2月15日

UMEX NEWS **UMEX NEWS** UMEX NEWS



「世話人代表からのご挨拶」

うおぬま国際交流協会準備会

世話人代表 権平 康子

国際大学創立20周年にあわせて、念願の国際交流協会(UMEX「夢っくす」)設立の準備が始まりました。

思えば1982年、八色の田んぼの真ん中に突如モダンな学舎が建ち、広い敷地は目に見えない高いフェンスに囲まれ、私ども住民には近寄りがたい異様な世界が現れたときの印象が今も鮮明に記憶にあります。

当時遠くから“外国人”を眺めていた私どもでしたが、20年の間に個人レベルで、グループで、子どもの学校を通してさまざまな形で留学生たちと交流を深めるようになりました。

しかし、縁あって日本の、この魚沼に学び、生活している留学生は現在50カ国、230名にも及ぶ現状を考えると、個人レベルでの交流ではとうてい対応しきれない状況です。

以前から一人一人の交流をたがいに手を組んでネットワーク化し、大きな力で留学生と共生し合えたら、と夢を温めていました。

今回、大学から声をかけて頂いて、大学と地域、留学生と行政(あるいは関係機関)も加わった四者が連携して多文化交流を共有し、協力し合ったら、まさに21世紀の夢づくりがそこから発信できるのではないかと大いに期待しています。

今年のウマ年の馬にたとえて考えれば、一人で馬に乗り興味ある場所に馬を走らせることはなんとも気分良く、身軽な行動ですが、これからは四頭立ての馬車を仕立てて、大勢の仲間や大勢の留学生と相乗りして、夢空間に出発しただけで楽しい旅が出来ると思うのです。御者は腕利きの2人の女性です。私は難しいことが苦手ですが、乗り心地良いスピードや休憩時間を御者に伝える役ぐらい出来るかなと気楽に考えております。

暦の上では春です。うおぬまの春はひときわ嬉しい季節です。

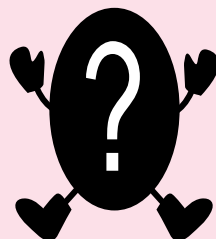
さあ、皆で馬車に乗ってUMEXづくりに出発しましょう!

UMEX

UMEX紹介

この協会の正式名称は「うおぬま国際交流協会」、英文の呼称をUONUMA Association for Multicultural Exchangeといいます。英文呼称の頭文字UMEX(夢っくす)を愛称として使います。

ロゴ「UMEX」のMは二人の人が出会って握手をしているところを表しています。UMEXでは、人と人との出会いから始まる、ひとつひとつの出会いを大切に交流活動を目指します。



キャラクター 大募集!!

「多文化共生社会へ向けて、異文化の理解と魚沼地域の国際化に協力し、連帯と協調の精神で地球社会の発展と平和の実現に寄与することを目的」にするUMEXをイメージしたキャラクターを募集します。手書きイラストあるいはグラフィックソフトを使って作成したキャラクターに簡単な説明文を添えて、3月10日までにUMEX事務局まで郵送して下さい。「夢っくすニュース」第2号で結果を発表します。採用作品製作者には図書券2万円(1名)、入選作品(数点)には図書券5千円分を贈呈いたします。

TOPIC

トピック

1面 「世話人代表からのご挨拶」 権平康子

2面 「国際交流から町づくりのエネルギーを」 大和町町長 秋山武雄
「夢っくす」プロジェクトへの期待」(財)日本国際教育協会受託事業室長 堀江 学
祝・夢っくす
・ロケッシュ(インドからの留学生) ・ボグダン(ルーマニアからの留学生)

3面 第3回準備会報告 うおぬま地域でも進む国際化

4面 UMEXサロン・カレンダー UMEX研修会シリーズ
日本語受講者募集&UMEX会員募集



国際交流から 町づくりのエネルギーを

大和町長 秋山武雄

近年の国際交流は、親善・友好といった形式的なものから、文化・経済・技術交流、教育や医療福祉の支援といった実質的なもの、メリットを求める方向に変化しています。こうした、人的育成や地域の特性に関連した分野、草の根的な裾野の広い活動などに施策が移行するなかで、市民レベルでの国際理解・国際協力の機会は飛躍的に増えており、地方自治体やNPOなどの市民団体の役割は、国や政府組織より重視されてきていると言ってよいでしょう。

また、生涯学習活動の推進などにより、多くの人たちの自己啓発や社会参画・社会貢献意識が高まり、昨今のボランティア活動などの盛り上がりにも後押しされ、地域に様々な団体が生まれ、エネルギーが活動がなされるようになってまいりました。

こうした時期に、中島記念国際交流財団の支援を受けて、国際大学と国際交流に関心を持つ住民の皆さん、そして行政が一体となってUMEXが設立される運びとなったことは本当にタイムリーであり、その活動に大きな期待を寄せるものです。

本協会に参画する目的は3者3様ですが、行政の立場から言えば、様々な問題がグローバル化するなかで、住民の国際認識と理解を促すことにより産業や経済が刺激され、地域活性化の契機となることが期待できることや、国際社会と直接結びつくことで新しい発想が生まれ、開放的で多角的な町づくりに寄与できることなどが挙げられます。

しかし、これらはあくまで結果として発生するものですから、当面は本協会の目指す多様性の理解、人と人の交流を側面から支えていきたいと考えています。

世はIT時代。大袈裟ではなく、UMEXが国際理解の大切さと人の心の温かさを世界に向けて発信する拠点となるよう願ってやみません。



First of all, thank you all for doing this. I am happy to find so much friendship and kindness from so many Japanese people.

I believe UMEX helps us in fulfilling one of the dreams that made most of us choose Japan for our studies - meeting Japanese people, getting to know your country and culture (and of course learning to speak Japanese language).

The list of things we want to know about is probably longer than the space available in the UMEX newsletter, so I will say no more now.

Once again, thank you very much for being so kind and friendly to us, and I look forward to the next UMEX day.

Bogdan

まずはじめに、UMEXの設立についてお礼を申し上げます。私は多くの地域の方々から私たちに對して深い友情と優しさをもって接して下さることを知って嬉しく思います。

私はUMEXが私たちが日本留学に対して描いていた夢の一部、多くの日本人と知り合い、日本や日本の文化、もちろん日本語を話せるようになりたいということも含まれます。を実現するための大きな助けになると確信します。

私たちが知りたいことをリストアップするには、このニューズレターのスペースでは足りませんので、また別の機会にお話したいと思えます。

最後にもう一度、私たちに對する皆様のあたたかな友情に感謝申し上げます。UMEXサロンでお目にかかれるのを楽しみにしています。

ボグダン

ボグダン君はルーマニアからの留学生で、3月5日の第1回母国紹介シリーズでルーマニアについてお話しします。

Hello!

Congratulations people involved with this! This would be a great help. Since coming to IUJ, I have held the view, shared by most others, that IUJ isn't in Japan. I understand that international diversity etc. are desirable and make education more fulfilling, but I guess there has to be some balance somewhere. IUJ students do need more of cultural exchanges with Japanese, and UMEX does seem to be a step in the right direction.

Except for language, most of what I have learnt about Japan is from outside of IUJ. I hope UMEX could also serve as a bridge between IUJ and local community, to enhance the "Japan experience" of the students. Best wishes for UMEX salon!

Warm regards,

Lokesh

こんにちは。

UMEXの設立おめでとうございます。私は、国際大学に入学して以来、「国際大学は日本にあるんじゃない」と学友たちと話していました。もちろん、教育環境として国際的な多様性のもつ素晴らしさは理解しています。しかし、同時にもう少しバランスも必要ではないかと考えていました。国際大学の学生にはもっと日本人との文化交流が必要です。UMEXの設立はこのための第一歩のように思われます。

語学を別にすれば、私が日本について学んだことのほとんどは、学外から得たものです。私はUMEXが国際大学と地域社会との橋渡しを、学生たちの日本経験を高める役割を果たすことを希望します。

UMEXの発展をお祈りいたします。

ロケッシュ

交換留学先タックススクール(米国)からのメッセージ。4月にキャンパスに戻ったらUMEXの活動に参加したいとの追伸がありました。

「夢っくす」プロジェクトへの期待

(財)日本国際教育協会 受託事業室長 堀江 学

(財)中島記念国際交流財団の助成により、(財)日本国際教育協会が全国の自治体関係の国際交流団体を通じて支援事業を募集した「留学生地域交流支援事業」は、今年度から開始された新規事業です。この事業の目的は、日本の諸地域における留学生受入れ環境を整備し、交流を促進するために、地域における留学生と日本人との相互理解促進プログラムを支援することにあります。

より具体的には、大学等高等教育機関、自治体、企業、公益法人、ボランティア団体等の密接な連携・協力により、地域性を生かした留学生受入れに関わるプログラムとして、(1)国際理解教育の推進、(2)生活支援体制の整備、(3)地域住民との交流の推進、(4)ネットワークの整備、(5)その他留学生交流推進のための活動、を支援することとしました。

北海道から九州まで、計19件の応募があり、各計画内容につき関係者間で慎重に審査し、7件を採用しました。これにより、各地域の特性を生かしたプログラムが動き出すことになったわけですが、「新潟県魚沼地区における地域と留学生の交流支援体制整備事業」は、先見性ある優れた計画の一つであると考えます。

その理由として、今後の日本社会が好むと好まざるとにかかわらず進むと思われる方向として、多文化共生社会を位置づけ、その円滑な実現のために、留学生を大学と地域社会とを結びつける重要な要素としてとらえていることが挙げられます。ともすれば、留学生に与える一方となったり、あるいは、留学生から何かを得ようとするだけだったりする傾向が見られがちな留学生との交流プログラムを、本来の意味での双方向の「交流」を目指すものとして、国際化についての地域での啓蒙活動(国際理解教育、日本語教育等)に力を入れていること、相互理解促進のためにニューズレター配布、ホームページの活用を計画していること、ボランティアの育成と活用を念頭に置いていること等の特長があります。

また、この種の助成事業にしばしば見られがちな、助成金を右から左に使ってしまう、助成期間が終わったら、事業もそれでおしまい、といった、助成金頼みのプロジェクトではなく、助成金を次第に減らしていった、独自財源を確保しようという姿勢が明確なことも、この事業が、一過性のものではなく地域に根づく活動として真摯に計画されていることの表れとして高く評価できるものだと考えます。

以上のような性格をもつ「夢っくす」プロジェクトは、地域の皆さんと大学関係者との協力によって、必ず将来的に大きな力となり、地域を支え、留学生を含めた地域住民の生活に精神的な豊かさ、バイタリティー、そして、しなやかさを与えていくに違いないと期待いたします。

第3回準備会報告

2月1日午後6時半から、第3回UMEX準備会が国際大学内のカフェ・ノープロブレムで開催されました。準備会設立有志が昨年10月から活動を開始し、昨年12月19日準備会を発足させ、世話人代表・権平康子、世話人、武田里子、山下委希子を中心に活動してきました。

第3回準備会では、当面する活動として、2月5日からUMEXサロンを開設すること、先進地視察、日本語ボランティア養成のための通信講座助成プログラム、UMEX研修会シリーズについて、事務局より報告されました。また、5月の正式な発足に向けて会員募集に取り組みを確認しました。(2月1日現在の会員数 会費納入済み 42名)

準備会では、浦佐小学校の岡村勝校長から外国人児童の急増が報告されました。浦佐小学校には現在、20名の外国籍児童が在籍していますが、日本語指導教員は1名という状況です。子どもたちのみならず、父母とのコミュニケーションが物理的に困難な状況にあり、UMEX日本語ボランティアとの連携を探りたいという期待が述べられました。また、4月からは、子どもたちが問題を発見し解決策を見つけ出していくことを目的とした「総合的な学習」が導入されます。浦佐小学校ではこの時間を、国際教育、情報教育、地域学習の3本柱で取り組む予定ですが、国際教育について、UMEXを通じたプログラム開発を検討します。

大和町役場の企画調整課高橋氏からは、「これまでは、国際大学の地元でありながら国際化の取り組みが十分ではなかった。町としても放置自転車を整備して留学生に利用してもらうプログラムや、ホームステイ、ホームビジットのプログラムを検討しており、UMEXと連携して実現していきたい」とのご発言がありました。

会議終了後は、国際経営学研究科・ラジャセクラ研究科長の乾杯の音頭で懇親会に移りました。懇親会場では、「私自身は異文化に興味があるし、留学生には日本の伝統文化を伝えたい。UMEXで日本の年中行事を紹介するプログラムを提供したらどうか」、「地域と国際大学学生との草の根交流をUMEXを通じてもっと活発にしたい」、「UMEXと共に自分も成長したい」、「国際大学の学生から英会話を教わってきたので、今度はUMEXを通じてお返しをしたい」など、参加者からのUMEXへの期待が述べられました。



うおぬま地域でも進む国際化

1985年のプラザ合意以降、日本経済は製造業を中心に海外進出が本格化しますが、それに伴って、日本への外国人の流入も急増しました。図表1は外国人登録者数(注1)の推移を表したものです。日本の総人口と外国人登録者数の伸び率を比較してみると、1990年からの日本の総人口の伸び率が2.7%であるのに対し、外国人登録者数の伸び率は56.8%であり、外国人居住者の急激な増加が数字の上でも明らかです。

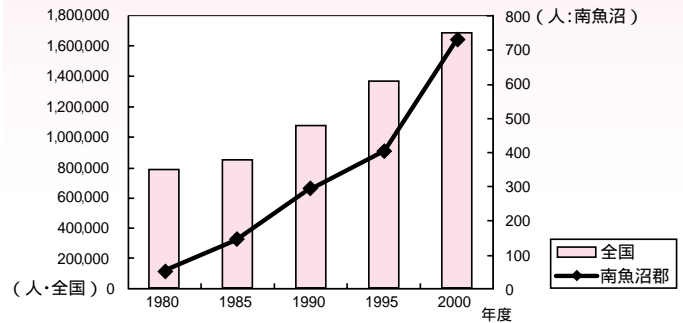
南魚沼郡についても同様の傾向が見られます。国際大学のある大和町を除く他の3町だけみても、この20年間に外国人登録者の数が約7倍に増えています。これは、南魚沼で働く外国人と国際結婚の増加などを反映していると思われます。

日本社会の国際化、多文化化は着実に進行しており、これに伴って、外国人への日本語学習の機会を提供することや、保育所や小中学校での外国人児童の教育体制の整備、行政や医療機関での多言語対応の必要性が高まっています。多様な人々が共に暮らしやすい地域をどのように作っていくのが、これまで以上に大切な課題となっています。

図表1. 外国人登録者の推移(1980年~2000年)

年	全国		南魚沼郡				
	総数	総人口に占める割合(%)	湯沢町	塩沢町	六日町	大和町	合計
1980年	782,910	0.67	18	12	18	7	55
1985年	850,612	0.70	39	16	20	70	145
1990年	1,075,317	0.87	34	29	59	171	293
1995年	1,362,371	1.08	40	22	124	221	407
2000年	1,686,444	1.33	66	55	207	406	734

南魚沼の集計値は2001年12月末現在



出所：(財)入管協会『平成12年度出入国管理関係統計概要・2000』並びに国政調査報告書より作成。

(注1) 外国人は、本邦入国後90日以内(本邦で出生した場合などは60日以内)に市区町村に登録し、出国、帰化、死亡などによりその登録が閉鎖される。入国後90日以内に出国する場合などには登録しない場合が多い。また、特例上陸許可者(一時庇護のための上陸の許可を受けたものを除く)、外交官、日米地位協定等に該当する軍人、軍属及びその家族等は登録の対象となりません。

UMEXの目的と活動

従来の国際交流活動

中島記念国際交流財団の助成
国際大学、大和町、地域ボランティア組織との共同による「うおぬま国際交流協会」を設立し留学生支援体制を整備する。

目的・理念

多文化共生社会へ向けて、異文化への正しい理解と魚沼地域の国際化に協力し、連帯と協調の精神で地球社会の発展と平和の実現に寄与することを目的とする。

個人やボランティアグループの交流活動
自治体・国際大学・小中学校・各機関の活動

↑↑↑↑↑
イベント・研修の企画、広報、活動の調整

夢っくす

UMEXでは、会員が増え、中心的に活動して下さるボランティアスタッフの体制が整いましたら、順次右記のような活動に取り組みます。5月の正式発足を目的に、委員会(組織、企画、広報など)を中心とした活動体制に移行しますので、皆様からの積極的なご参加とご協力をお願いいたします。

UMEXの活動内容

1. 留学生/外国人の日本語学習支援と日本人の多言語学習支援
2. 異文化の学習と体験のための企画と運営
3. ホストファミリーの登録とホームステイの計画と実施
4. 留学生/外国人に対する各種生活相談
5. バザーの企画と運営
6. 地域の国際交流行事の実施と協力
7. 会員のための各種研修の企画と運営
8. 広報・情報紙の編集と発行
9. 他の国際交流機関との連携
10. その他会員が必要と認める活動

UMEX サロン・カレンダー

2月5日から毎週火曜と金曜（午前11時～午後3時・午後7時～午後9時）UMEXサロン（国際大学第3学生寮1階）を開設しています。サロンでは、留学生の日本語会話パートナーが主な活動ですので、英語の苦手な方も大歓迎です。どうぞ、お気軽にお立ち寄り下さい。

また、UMEXサロン夜の部では、留学生が日本語で母国を紹介するプログラム「母国紹介シリーズ」を3月から開始します。UMEXでは、こうした活動を通じて留学生と地域の方が相互に学びあう関係を大切にしたいと考えています。

	UMEX活動予定	UMEXサロン開設日	
		11:00～15:00	19:00～21:00
2月12日(火)			
2月15日(金)			
2月18日～19日	先進地視察(東京地区)		
2月19日(火)			
2月22日(金)			
2月23日(土)	13:30～UMEX研修会1 於:大和町公民館		
2月26日(火)			
3月1日(金)			
3月5日(火)	19:00～母国紹介シリーズ1(ルーマニア) 於:サロン		
3月8日(金)			
3月9日(土)	13:30～UMEX研修会2 於:大和町公民館		
3月12日(火)			
3月14日～16日	先進地視察(札幌地区)		
3月15日(金)			
3月19日(火)	19:00～母国紹介シリーズ2(ウズベキスタン) 於:サロン		
3月22日(金)			
3月23日(土)	14:00～UMEX研修会3 於:大和町公民館		
3月26日(火)			
3月29日(金)			

UMEX 研修会シリーズ

2月23日(土)
午後1時半～3時
於:大和町公民館

「日本の国際教育交流と地域の人々の役割」
JAFSA(国際教育交流協議会) 事務局長 堀江 学 氏

日本留学の成功のためには、大学での教育にプラスして、地域住民との交流を通じた日本の文化社会の理解がかかせません。留学生は学生であると同時に、地域で共に生活をする住民です。同じ地域住民として留学生たちを受け入れ、交流を進めるには、どのような方法があるのか、日本への留学生はどこから来て、どのように受け入れられているのか、また、国際大学がなぜユニークであると評価されるのかについてもお話しします。

3月9日(土)
午後1時半～3時
於:大和町公民館

「くにたち地域国際交流活動の実践」
一橋大学留学生センター教授 横田雅弘 氏

15年前に立ち上げた国立地域の国際交流ボランティア組織が、どのように展開し、大学や地方自治体とどのように関わり、またどのような問題を抱えたかについて、余すところなくお伝えいたします。この経験がみなさまの新しい活動にお役にたてば幸いです。

3月23日(土)
午後2時～4時半
於:大和町公民館

「異文化コミュニケーション入門講座」
南山大学外国語学部助教授 近藤祐一 氏
南山大学留学生アドバイザー 堀江未来 氏

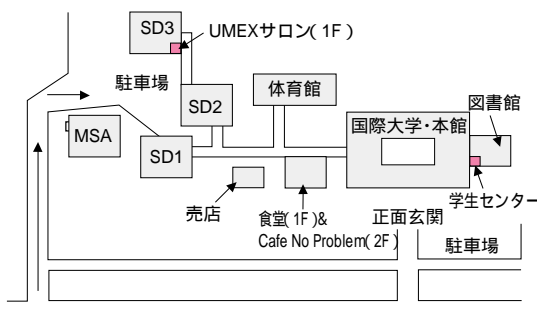
国際交流では、すべてのコミュニケーションがうまくいくとは限りません。そこには思わぬ誤解が必ず待ち受けています。それをいかに未然に予知し、また防止できるのか、さらに、もしそのような事態が起きた場合、どのようにそれを解決できるのか。このような異文化コミュニケーションのヒントを皆さんと一緒に、講義やゲームを通じて考えていきます。

「日本語の教え方講座」 受講者募集&会員募集

UMEXでは留学生の日本語で地域の方々とコミュニケーションをしたいという要望にこたえるため、日本語ボランティアの養成を行います。(株)アルクの通信講座「日本語の教え方・短期実践講座」(受講期間/6か月、受講料39,000円)を受講・修了した方には、ボランティア登録を条件に受講料のうち29,000円を助成いたします。

3月7日より15名の方が受講を開始します。4月7日から受講を開始する方を新たに10名募集します。募集締切りは3月10日ですので、ご希望の方は、事務局まで資料を請求して下さい。

6月を目途に、日本語教育の専門家をお招きして講座受講者を対象にした「日本語ボランティア養成講座」も別途開講しますので、「この機会に日本語について勉強してみたい」、「身近な外国人に日本語を教えてみたい」という方は奮ってご応募ください。



UMEXへの入会は随時受け付けています。UMEXにご関心のある方は、電話またはファックスで事務局まで資料をご請求ください。



うおぬま国際交流協会

〒949-7277

新潟県南魚沼郡大和町大字穴地新田777番地
国際大学内 UMEX 事務局国際交流サロン(1F)

TEL: 0257-79-1439/0257-79-1520

FAX: 0257-79-1180